

脱炭素経営の試行と気付き

有限会社竹内水産

2024年12月2日

会社概要

商 号 有限会社竹内水産

設 立 1983年4月1日

所 在 地 阿南市椿泊町小吹川原45-3

売 上 高 約14億円

事業内容 魚介類の産地仲卸、および販売
しらす干し、上乾ちりめん、海藻類の加工および販売



省エネ診断の実施

- ・徳島県が採択された「令和5年度地域ぐるみでの脱炭素経営支援体制構築モデル事業」の一環として、2023年12月に宮地電機株式会社による**省エネ診断を実施**
- ・当社加工場の**設備投資や運用改善**について、10件の提案を受けた

	No	提案内容	CO2削減量 【t-CO2】	費用削減額 【千円】	投資額 【千円】	回収年 【年】
運用改善	1	ボイラーの運転圧力低減による蒸発潜熱の有効利用	2.3	85	-	-
	2	ボイラーの運転圧力低減による排ガス損失の削減	5.3	196	-	-
	3	コンプレッサーの運転圧力低減による省電力	1.0	74	-	-
	4	室外機のフィンの清掃	0.7	53	-	-
	5	【参考】フィルターの清掃	-	-	-	-
設備投資	6	自家消費型太陽光発電の導入	15.6	750	6,848	9.1
	7	変圧器の効率化	2.0	146	1,300	8.9
	8	冷蔵庫の効率化	3.0	217	3,000	13.9
	9	しらす茹で釜槽の保温	0.8	30	100	3.3
	10	蒸気パルプの保温	1.5	57	324	5.7
合計			32.2	1,608	11,572	

省エネ診断の実施

- ・徳島県が採択された「令和5年度地域ぐるみでの脱炭素経営支援体制構築モデル事業」の一環として、2023年12月に宮地電機株式会社による**省エネ診断を実施**
- ・当社加工場の**設備投資や運用改善**について、10件の提案を受けた

	No	提案内容	CO2削減量 【t-CO2】	費用削減額 【千円】	投資額 【千円】	回収年 【年】
運用改善	1	ボイラーの運転圧力低減による蒸発潜熱の有効利用	2.3	85	-	-
	2	ボイラーの運転圧力低減による排ガス損失の削減	5.3	196	-	-
	3	コンプレッサーの運転圧力低減による省電力	1.0	74	-	-
	4	室外機のフィンの清掃	0.7	53	-	-
	5	【参考】フィルターの清掃	-	-	-	-
設備投資	6	自家消費型太陽光発電の導入	15.6	750	→今後 6,848	9.1
	7	変圧器の効率化	2.0	146	1,300	8.9
	8	冷蔵庫の効率化	3.0	217	3,000	13.9
	9	しらす茹で釜槽の保温	0.8	30	100	3.3
	10	蒸気パルプの保温	1.5	57	324	5.7
CO2削減量の大きい施策を実施					11,572	

実際に行った施策

[No.1,2] ボイラー圧力低減

- ボイラー圧力が必要な値よりも高めに設定されていた
- 念のためのマージンであり、運用上は不要のため設定変更



[No.7] 変圧器の更新

- 更新前の変圧器は設置後30年近く経過。変換効率が低下
- 省エネ診断により高効率な変圧器へ更新することで、毎日の電気代削減のアドバイスを受け、変圧器の更新を実施



[No.8] 冷蔵庫の効率化

- 開閉が多い。扉が重いので開けっばなし時間が長い
- 冷蔵庫外からの熱流入を防ぐため、エアカーテン付電動扉を購入。一部はものづくり補助金を利用



備考： 電気代の削減は確認、実感できず（しらす漁獲量によってボイラーや冷蔵庫の電気代が大きく変化するため）

今後の計画

[No.6] 自家消費型太陽光発電の導入

費用対効果は大きくモチベーションはある
(7年で回収できる試算をもらった)

課題：

- ・資金面（補助金などがあれば）
- ・塩害
- ・廃棄・故障の追加費用

**金額が大きく課題もあるため
実施への腰が重い**



課題

課題①

社内体制の整備

- ・脱炭素経営に向けて、エネルギーを管理する責任者を明確に選定
- ・エネルギー管理に関する規程を作る
- ・教育を充実させ社員の意識を変える

課題②

効果の可視化

- ・CO2排出量可視化システム導入の検討
- ・CO2排出量に基づいた目標設定や、継続可能な計画策定を行い、モチベーションを高める
- ・社員間でCO2排出量や、目標に対する実績等を共有し脱炭素の意識を高める

課題③

施策を面白く

- ・始める・続けるモチベーションを作る
- ・企業間で競争（市町村のHP等で公表、脱炭素アワードのような）
- ・社員間での競争などゲーム化

自治体への期待

“継続できる施策がいい。そのために複数の自治体・企業で協力していきたい”

継続できない理由：

正直、脱炭素のモチベーションを維持しにくい → お金の面、面倒くささの面

ダイエットと似た感じ。やったらいいんだろうけど、、、続かない → 室外機フィルターの掃除やりたくない

提案：

町全体(たくさんの企業)を巻き込むことで「楽しく」継続できないか？

「あら、じゃあちよつとやってみようかしら？」となる雰囲気、お膳立てが欲しい

案① 市町村のHPやニュースで各企業の取り組みを紹介

- 「みんなやってる」は魔法の言葉
- 情報共有を増やし、「チーム意識を高める」
- 役場が施策の共通点を繋いで企業連携する

ゴール： アンケートで企業連携が50%増加する

案② 脱炭素アワード(仮)の創設

- 「勝負させる」と成長する
- アプリで常に全社の頑張りが見える
- 表彰は自社PRに使える

ゴール： 好事例として全国紙に取材される